

1月22日

殉教者執事ビンセント

Vincent of Saragossa

(? ~ 304)

～スペイン最大の聖人～



「16th century painting
of Vincent
by an anonymous」

ビンセントは「勝利者」という意味であるが、彼はスペイン最大の聖人であり、ローマ帝国最後の迫害の時期の殉教者である。303年から始まったこの最後の迫害は、特にスペイン地方で激しいものであった。

ビンセントは3世紀末にスペインのサラゴッサで貴族院の議員の家庭に生まれる。彼は若い時から雄弁であったと言われているが、それ以外のことはほとんど伝わっていない。

ローマ帝国による迫害において、ダシアノ総督はサラゴッサで18人のキリスト教信者を過酷な拷問によって殺害した。そしてその時のサラゴッサの司教バレリオと執事ビンセントに対しては、信仰を捨てさせることに力を入れていく。司教バレリオは言葉が不自由であったために、ワレンシアの拘置所で行われた尋問はビンセントが答弁していったのだが、棄教を迫る総督に対してビンセントは、「わたしはあなたたちの神々を信じません。存在するのは御父とキリストです。たった一つの神です。わたしたちはその僕であり、その証人です」と答えたという。

その答えに怒った総督は、司教を流罪にし、ビンセントをさらに攻撃した。網にのせて焼いたり、手足を縛って体を引き伸ばしたり、鉄の熊手で彼

の体を搔き裂いたり、塩を傷口に塗ったりと、あらゆる拷問にかけながら甘い言葉をかけて棄教を勧めるが失敗に終わる。

そして裸足に足枷をはめた状態でガラスの破片や砂利が敷かれた牢に投げ込まれたとき、彼は殉教した。その時の様子は「ビンセントの留置された牢獄内に美しい光が輝きわたると同時に天使が現れ、ビンセントを慰めながら「勝利の栄冠」を約束した」と殉教録に記され、それを見た守衛たちは恐れおののき、回心してキリスト者になったと言われている。

ビンセントの殉教の話はアウグスティヌスの言葉の中にも出て来るように、その当時から有名なものであった。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者執事ビンセントに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン